

HR：イメージとして全体学習とか合同学習っていうのは私の中では囲碁のイメージを持っています。生徒と指導する側で盤面を挟んで、質問とか、それに対する返しとか、思いとかっていうのを盤面の上に並べている状態。そのなかで、ふっと置かれた石、ふっと置かれた質問っていうのが、どういう意味を持っているのかっていうのが解っている人間、2人の中ではこの質問の意味が解っているか解っていないか分からないけど。なぜ今この質問なのかっていうのは、実をいうと第三者というか、上達してるっていうか、解っている人間は、あーなるほどね、その質問なのねっていうのが、阿吽というか空気感で解ってるんだけど、その経験があまりないとか、やったことがない人間に関しては、その意味というものがまったく感じられない。なので、その盤面を見たときに、いや、こっちの混み合ってる方がもっと大事じゃないのってなって、だからそっちへそっちへと流れていったりとか。それは指導する側も生徒側も、そっちの込み入ってる方を優先させちゃうんだけど、盤面は広いと。だからその意味っていうのが、なかなか受け取れない。だけど、ある程度熟達してきて、盤面を俯瞰して見えるような人間になったときには、あーなるほどそこにはそういう意味があったんだっていうのは、経験なり人生を積み重ねたものを自分がもって、ある程度見えるようになってきたときにはその意味合いがすごく大きく感じたりとか、あーなるほどそこに打つんだねっていうのがわかったりとか。あと、対局している人間は解らないんだけど、周りで俯瞰している人間はもっと解る人間がいる場合がある。なるほどそうなのね、そっちの方が大変じゃないのって。本人たちは、すごく込み入ったところに集中してるんだけど、こっちにもっと展開できる場面があるじゃんということが考えられる場面がある。それを俯瞰して、いかにニュートラルに全体を見渡せるかっていう。そのなかで自分はどうしていくべきかっていうのを考えるのが全体学習でないかと捉えてる。そっちへ流されずに、こんなこともあるよね、こんなこともあるよねって、いろんな局面なんかを知ること。人によって石の置き方は違うので。それは質問とか返しっていう形で出てくるんだけど、どこに置くかっていうのは、その人が置いた感性なので、その石の場所

の意味っていうのは、分かってても、ある程度慣れてても、エッと思ったとしても、後でゆくゆく考えてみると、ある程度場面が詰んできたときに、あーなるほどね、そういう意味がここにあったんだって、後付けで意味を考えられる場面も出てくる。なかには天才的なやつもおって、そこに置かれた瞬間に、なるほどこれはこうなっていくんじゃないかって、どんどんレベルが上がっていく場面もあるんじゃないかって。(学級と大きな集団との違いは何だと思う?)学級はある程度縛りがあると思う。定石というか。石の置き方パターンがある程度できている。必勝パターンが。けど、これを他の場面で行った場合に、石の置き方が予測できない。ある程度のカテゴリーとして盤面に置かれるパターンが分かっていたとしても、どんな質問が来てどこに駒がくるか分からない。対応力が試されるということ。学級の中の発言はある程度読みの中でパターン化できる。ある天才的なやつに質問投げかけられたときに、それを受けとめられる力が周りにあるかどうか。(自分の手の届く範囲じゃない集団になる意味がそこにあるということ?)はい。今までのパターンとは違う新たなパターンを創り出すのか、即興で創り出すのか。即興のときは自分の感性が出ると思うんですよ。パターンじゃないものに対して自分はどう対応していくか。ある子がカミングアウトしてきたっていうことに対して、教室の中のパターンは分かっている。返しのパターンは個々に存在していると思うんですよ。まったく知らないやつがどう返してくるか読めないなかで、自分はどう返していくのか、どう考えていくのかっていうのは、最後は感性でしかないと思うんですよ。(違う学校があるような中学生集会のようなケースになっていくと、それはより一層顕著になっていくということか?)顕著になる。

SG：一つのクラスの中より、より広い人間関係の中で、例えば部活の関係とか、信頼関係のある子が1人でもおるっていうことは、全体学習のなかで良かったことかなと思う。例えば教室で勉強する、話し合いする、教師が中に入ってするっていうので、中学校では教師が子どもらと接する時間っていうのが限られていて、小学校であれば担任の先生がずっと一緒にいるとかという中で子どもたちのつながりを結びつけたりとか、行動化しやすいと思うけど、中学校は教師がつながっていくのは難しくて。でも子ども同士のつながりっていうのが、機会が多くなると学級だけじゃなくて休み時間の他のクラスの子、部活の中、昔は学習会や学びの場のつながりで、そのつながりをさらに強めていくって

ということがあった。それを確かめる場に全体学習はなかったし、そこで話をすることで、自分のクラスの仲間だけじゃなくて、もう一つ広がった仲間とより広いつながりができる機会になってたんじゃないかと思う。それは卒業したあとも、そのつながりは人間関係の延長線の一つの束みたいなのがあって、その束みたいな物の一つになり得ていたのではないかと、振り返ると感じています。

《一時中断》

SG：生徒が生徒を注意してる場面もあったじゃないですか。例えば、「寝てる人起きてくれんの」みたいな。それは僕らの仕事なんだけど、生徒が生徒に言われるっていうのは違った感じがありましたよね。先生に言われるっていうんじゃないかと、同じ中学生の友達や同じ部活のヤツらに言われるっていうのは、子どもへの入り方も違うし。そこで考えたり、休み時間に別の場面で話をするっていう場面も何度もあったし。それは人権学習からもっと発展して、別の話題のときにもそんなつながりは出てきていたと思うし。今、アクティブラーニングとか言ったりするけど、そんな機会になってたのかなと、今振り返るとね。教室の中でっていうのじゃなくて。それがまた、卒業したあとの人間関係の中でしんどいことがあったら話をするとか、そういうときのための訓練じゃないけど、こうしたらいいんじゃないとか、こんな話してもいいんじゃないかっていうことを体験させてたのかなっていうふうに思いました。今もその時も感じていた。子どもの力ってすごいなって。「あーそうなんじゃ」ってこちらが思うこともあったし、話がふらふらしてしまうこともあったんやけど。今振り返って考えると、こんないい点があるな、今求められている教え合いやいうのにつながる場面があったんやなっていうふうに感じます。部活のときに、今日頑張ったなって言う場面を見たら、こういうつながりがあったんだなっていうことを思っていました。全体学習の中で話が盛りあがってたときっていうのは、そういうのが至る場面で見られたかなと。(部活の仲間意識にいい影響を及ぼしてたことはあった)団体競技だったらね、強かったんじゃないかなと思います。(クラスが違ったら、その子がどんな子か、小学校が違おうと分かってるようで分かっていなくて、仮に部活が同じだったとしても。例えば授業中にどんなことを言うのかとか、言わないのかっていうことも含めて。けどあの場にいることで、人間性や人間味が見てとれたっていうことはあった。全校になるとよりいっそうそうだった。出身小学校も違う、部活も違うなかで、そ

ういうのを超えて縦横無尽につながるようなところがあった)

HR：一つ引かかることがある。クラスの中では発言が少ない、できない。発言しても表面上の問題解決策を言ってしまう。実現可能かどうかは別として。教員側の望むような落としどころに発言を寄せようとしてくる。そうじゃなくて本音でしゃべりたいんでしょっていうところがあるんだけど、ない。けど中学生集会に来ると、そういう発言が多くなる。これは穿った見方かもしれないけど、人間関係が濃くなればなるほど、言えないことが出てくるのかなと。腹の中の探り合いではないんだけど。こういう言い方をすれば傷つくんじゃないかとか、これは言うよ、その集団で居場所がなくなるんじゃないかとか。実際はまったく逆なんだけど、そういうあらぬ想像をしてしまう。けど人間関係はある程度薄くても、あたたかく見てくれる集団がある場合、ちょっと言ってみようかなと。今まで言えなかったんだけど、ちょっと言ってみようかなと。ちょっとしゃべってみたら、たいしたことないような、自分が思い悩んでた以上に結構受け入れられる。それを自信にして、もう一度濃い人間関係のところでしゃべってみようかと。いや、しゃべれないかなと。けど一回しゃべると自信がついて、ちょっとしゃべってみようかなと。そういう自信につながったり、それが次の中学生集会につながったりとか、学級のつながりにつながってたりとかいうことを考えると、人間関係のある程度薄いところ、さっき吉成先生の言ったような、まったく関係のない1年生と3年生のような関係の方が、実はしゃべりやすいんじゃないかと。重いテーマに関しては。けど受けとめてくれる。それができてきたら、本音でしゃべる人間を嫌う人間はおらんのですよ。自分の一番言にくいことをしゃべる人間で、結構リーダーシップを発揮したりとか、言にくいことをずばずば言ったりとか。さっきSG先生が言ったことにつながるんですけど。「おい、何寝よん」というんを言うのは、横の立場としたら、ものすごい言にくいじゃないですか。特に力関係を考えると。「コイツに言うか」という場面もある。けどそれを超えて、いやお前これはアカンやろと言ってくれる人間が一人でも増えるって幸せなことかなと。膝を叩いてくれる、お前行き過ぎやぞって。そういうつながりっていうのは大事なかなと。自分にストップかけてくれる人間がおるっていうのは。自分が行き過ぎたときに、お前これは行き過ぎやぞって。逆にコイツが困ってたら、防がな、助けようという手が出たりとか。

それは誰かが発言したらそれに続けて発言するっていうのも、そうかなと。「孤立させないようにしようぜ」みたいな。そういうことにつながっていくん違うかな。仲間づくりのなかで。

SG：そういうのはある。中学生集会は特に目的がハッキリしてて、そういう目的意識を持ってるとか、ちょっと興味もってるとか、先生が肩押してくれたけん、ほな行こかっていう子らが集まって、そこで発表を引っ張ってくれる子がおって、そこに乗って話ができてしまうとか、乗って話ができてしまうと、自信がついて、ほなもう一回発表しようとか、もうあと時間がないうんよなっていうときにみんながバーって手を挙げてっていうのは、すごく自分に自信を持ってそうな空気がある。それから受け入れてくれるっていう、共感してくれるっていう雰囲気がある、それがいい方に動いたときには、そういう雰囲気が醸し出されて後半になると発言が出てきたり。誰かの発言につなげていこうとする、それから自分が言うたことに対して誰かが言うてくれるとかいうことで、共感してくれたなとか、自分の話がこの場で生かされたなとかいうようなことにつながって、思いきって発表できるとか。誰かの、さっきのつながりのある子に対してなんかしたいとか、でもそれはなかなか言葉にはならんやけども気持ちで発表できるとかいうようなことで、その後また他の先生方も、あの発言すごい良かったなとかいうので、自尊感情高めるじゃないけど、いいように言うとな。そんな場面もあったな。確かに違った意見に対して、自分は違うんじゃないかって言うようなこともあったけど、それを言えるっていうような効果もあったかな。中学生集会はそれで対立してしまうんじゃないかって、学級ではそれで対立するとHR先生の言ったように居場所なくなる可能性あるけん、言うんやめとこうっていう方向になるんやけど、逆に言うておこうっていう方向に進んだ場面もあったかなと思いました。

HR：マイナスの話するとね、場の雰囲気ですべて受けてくれるってなったときに、自分の一番重たい話、めちゃくちゃヘビーな話を、パッとやってしまう場面であるじゃないですか。それ、中学生って受け止めれるんかなと。向こうから1トンぐらいの鉄球が降ってきたやつを素手で受け止めろって言われてるのと同じような感覚を受けへんかなと。教員サイドの立場から、大人の立場からパッと見たときに、「おー、ようほの発言したな」って、「これはまた広がりのあるところに発言を持ってきたな」っていうふうに捉えられるんだけど、子どもの立場からしたら、非常にヘビーなんじゃない

かな、その質問で。それをドーンと投げつけられても、今の俺には返せて、口を噤んでしまっしんどい思いしてないかなっていうのもあるんですね。ある程度の年齢を重ねて、それを受け止める術、それを受け流す術を知るとある程度のさばき方ができるんだけど。それは教員のさばきかもしれんやけど。けど中学生にもろに鉄球ぶつけていいのかどうかっていう。

SG：雰囲気ですっちゃうっていうのはあるな。熱くなって、自分が奥底にためとるもんを言うんだけど、今まで誰にも言うたことのないようなことを突然言われた方は、「えー」っていうのは。学習会があったときにはあとでフォローできたけど、ないようになってそのフォローが…。人権学習の中では、そんな場面が何度かありましたね。それを今実際にやってみるとなると、重たい話、ごっつい重要な話をしたあとに、どう受け止められるようにその後フォローするかっていうのは重要であるし、難しいなって思う。

HR：そこに、さばく教員の辛さってないですか。これを上手く捌ききれなかったときのダメージはでかいぞと。

SG：それは全体でせなあかんや。俺のクラスだけしたんでは。

HR：意味がない。同じような形で同じようなフォローを、みんなですばけるようにしようぜってなってくると、暗澹たる重い気持ちに教員側がならないか。それが後ろ向きになる理由にならないかなと。やってみると結構さばけるんですけど。鉄球飛んできてかわしたら、スルーみたいなのでいける場合もあるんだけど、向こうは、発言した人間は、重い荷物を背負ってるから、それをよしよって降ろしたとこなんですよ。ほんで、あー自身が軽くなったっていうレベルなんだけど、その降ろした荷物は誰が拾うのっていうのを思い悩んで、ちょっと後ろ向きになっちゃう。もしくはそういう発言が出ないように、シナリオを作ってしまう。それが出ちゃうと困るからっていう。しない方がマシになる。もし全体学習、合同学習するにしても、それが飛び出さないように策を練ってしまったりとか。質問とか発問を練ってしまったりとかっていうところないですかね。(基本的に教員の中にはその意識があるって考えてもいいような気がする。ただ全体学習をやり始めたときっていうのは、結局部落問題、同和問題はタブーで、学習会もタブーだった。そこをオープンにすること自体が、顕在化させてしまうっていうところで、あれも実際問題タブーだったはずなん。だから表面上の議論をする分には全然問題ないんやけど、そ

こからちょっと奥に入ったような話にはなかなかならなかったし、生徒もせんかったし、教師も望みはしなかった。けどそこを切り込んでいった)

HR：切り込むことが、全体学習の意義やと思うんですよ。これ、クラスの数では受け止められないけど、もしかしたら学校全体だったら受け止められるかもしれないって思うんですよ。自分はさばけないけど、さばける生徒はいるかもしれない。(教師は拾えんよ)拾える可能性のあるやつがおるんですよ。スーパーエースが。結構縦に受けるとしんどいんだけど、横から突くと結構もろかったりする。見方捉え方とか考え方で。だから、そこに切り込む必要はあるんだけど、教員の危惧の部分がそれをさせないかもしれない。(だからこういうのは広まらない)だから、中高生集会になっちゃう。やっぱりそのビビリ方っていうのはごっつい深く感じますね。(ほなって、保護者からどんなクレームが来るんだろうとか、どんな教育してんのっていうところの話になってしまうから。やっぱりそこはビビってしまうよな。あと責任取ってくれるの?もてるの?っていうことは、何度となくあったかな。けどその子がその子自身の人生をどう受けとめながら生きていくのかっていう、キャリア教育的な、これから先の人生をその子自身がどう歩んで行くの?っていう。それは親であっても請け負えない話やから、その子自身が請け負っていかないとアカン話やから、その子自身がどういう力をつけないかのか持たないかのかっていうことを、問うていった感じはあるな)けど保護者の立場からすれば、うちの子に鉄球ぶつけやがった!って。立ち直れんような怪我したらどなんするんっていう形になりますよね。だからそれを拾えるってなかなか難しいんですけど、やってみれば簡単と思うんですけどね。実際やれてるじゃないですか。やれてる地域あるじゃないですか。あれは本大会一発だからいけるんですかね。鳥取県、本大会のみの参加でしょ。自前ではやってます。自前ではやってるんですけども、教員の広がり鳥取県は強いですね。(いや、鳥取県というくくりにはせん方がいいと思う)大山町。(そう、西部の方はって考えた方がいいと思う)そこの教員の意識が変わったら、もうちょっとっていうことになるかと思う。たぶん生徒は変わらないと思うんですよ。どこの生徒でも。(生徒自体は変わらないような気がする。ただ出てくる内容みたいなものは、地域性によって違いはあるかもしれないけど。それぞれの地域性の中で、今まで触れてなかったものが出てくる、顕在化してくる可能性っていうのが十分あるような気がする。問題は

それにどう教師が対応するかっていう。けどホンマは教師が対応をそんなに責任持たなくてもいいんだよっていう話であって、子ども同士で解決できるんだからっていう)子ども同士で解決せなあかん問題やと思うんですよ。ホンマはね。つきあってる集団に、我々が参加させてもらってるだけで。いろんな圧力は感じますけどね。ネガティブな部分だけ取りあげられると、腰は引けますけどね。(他にはないですか?)全体学習の形とはまた違うんですけど、各学校で行われている校内人権問題意見発表会って全体学習じゃないですか、ある意味。前で意見発表して、それに対して生徒が何かしらのリターンしていけば、それは全体学習でしょ。聴いてるだけっていうのも、感想文を書けば、それも全体学習かなと。それが発表者に返っていけば。ということを考え合わせて、本年度、保護者の方に宿題を出しました。意見作文を人権日より、PTA新聞に代表作品を載せて、保護者の方にご感想くださいというのを載せたら、一割強の保護者の方の反響がございました。うちの学校も捨てたもんじゃないなと。そこから3年生限定になるかもしれませんが、生活記録に、親とこんなこと話し合ったという文章もあり。まあ自分やちょっと捨てられとるような愛情も感じられんような毎日送とるけど、これをきっかけにしゃべってみたと。保護者の感想の中でも、これをきっかけにちょっとしゃべってみたと。普段そんなにしゃべらんのかと。それに対して子どもも敏感に反応してくるのかと。やっぱり自分のこと知ってくれてちゃんと応援してくれてるんだということが分かるっていうことは大事なことなんかと。特別に手紙書けとか、よく子どもにこんなに愛してるんだよということを保護者の方に書いてくれというのもあるんだけど、こんなきっかけでしゃべる機会があれば、それでいいのかなと。全体学習でこんなこと聞いて、こんなこと思ったんじゃないっていうことを家で言えたら、それがきっかけになって、家族といろんなことを話すきっかけになるんじゃないかなと。そういうのが分かると、さっきのクレームじゃないですけど、ちょっと減るかなと。中学校しっかりやってくれてるんやな、お任せしとこうって。石ばっかりぶつけよるんちゃうって。ちゃんと身の守り方、かわし方も教えてくれよんじやって。今回結婚差別でしたよ。同和問題の絡んだ。保護者も何かしら言っときたい、しゃべりたいことがあると思う。それを面と向かって、切羽詰まったときになかなか親御さんも言えんけん、これを機会にちょっとしゃべとこうっていうのもあるのかなと。(確実に保護者の世

代は同和教育を受けている世代。だからその意識が見えるっていうのは、すごく意義深いよな。いい反応が返ってくれば教育会全体の財産になるし、嬉しいし)けど保護者の反応も子どもの反応もほぼ一緒でした。っていうのは、差別はなくならないと思います。差別はなくしたい、差別はいやなんだけど、差別はなくならないと思いますっていうのが、今セカンドステージなんかあって。(昔もそう違う?無くなっていくプロセスを目の当たりにした人でないと、その感覚は持てないと思う)けど一つ違うのは、親の世代、じいちゃんばあちゃんの世代っていうのは、差別を肯定してたじゃないですか。差別は絶対なくなれへんのじゃと。差別はいやだと。差別はしたくもないし受けたくもないけども、差別はなくならないと思う。差別を否定的に捉えてるんだけど、なくならないと思うと、そういう意識に変わってきてるんですよね。その次の世代の子どもは、もう少し意識が変わるんちゃうかなと。三世代目。(三世代は必要だったと思う。同対事業についても。一世代では無理)その一世代こえて、差別を肯定的なものとして捉えてたのが、今の親御さんは否定的に捉えてるんですよ。差別はあってはならんと。けども、差別は現在も残ってるから、これはなくならんとと思うと。そういう意識はあると思うんですよね。それが子どもの中でも、やっぱり差別はなくならんとと思うと、否定的なんやけどもなくならんとと思うと。親の、上からの考えていうのは今引き継いでいってると思うんですよ。その子たちが次親になったときに、いや差別はアカンのじゃって、どんな場面であってもアカンのじゃって。世代が進んでみないと分からない。我々の頑張りかなと。けど先人の教員の取り組みでそういうふうに変ったんだから、もう一世代頑張ったら。結局頑張らないかん。(やっぱりなくならんので、で終わらせたならアカン)それで終わらせたなら結局、じいちゃんばあちゃんの世代に戻ってしまう。10年前の話になるんですけど、親の会話の中で、親と話をする、当然自分のことを愛してくれているように語ってくれる親御さんもいれば、頭から否定する親御さんもいる。「何言うとなねん」と、一昔前の発言から言うと、「お前差別受けたことないけんほんなこと言うて」って、あそのやつらはみたいな言い方する親御さんもおると。子どもの受け止め方としては、うちの親って何でこんなに差別するん、うちの親はホンマ差別者じゃって、親を嫌いになる。親に否定的になる場面もあったと思うんですよね。ほなけんうちの親は何を言っても無駄やと。これに関しては無駄やというふうにと捉えてしま

う子がいると。けどそれ、反対にかえしたら、対立して相手を変えようと思わずに、ずーっとそういうのを語りかけていくと、ずーっと話し合っていけば、いつか、分かるか分らんのか分らんのかやけども、妥協点見つかるんちゃうかと。妥協点見つかったときに、親好きになれるんちゃうかと。今対立しとったけど、両方が、親と子が…これは穿った物の見方かもしれんけど、一回対立に入ったものを戻すってなかなか大変かもしれんけど、妥協点が見つかったときに、自分の親を好きになれる瞬間が、いずれ訪れるかもしれない。だから、今しゃべってみませんか。お前んとこの親はいいよなっていうんじゃないで、あの親のようにうちの親もなる可能性があるっていう。うちの親は役に立たんしって思ってる人間もいるんですよ、実際。そういう親を好きになれるっていうのも難しいので、好きになれる瞬間をつくってほしいなと。丸ごと好きになれるとは言わんけど、こういうところでは信頼できる、好きでおれるなっていう部分を作ってもいいのかなって。そのために必要だった同和教育ではなかったかと。親の世代、子どもに対して胸を張れる生き方って。必要かなって感じています。自分たちが親になったときに、じいちゃんばあちゃんはこうだったけど、これはこうだったって胸張って言えたら格好ええ親かなと。親として親の立場になったときに。

SG:子どもの成長って親を変えるよな。頑なに親って根強い差別もつとるなって思うけど、子どもがホンマに向き合うとつたら親って変えられてしまうよな。ほれは部落差別だけに限らずね。HR先生の言うたことっていうのは、ホンマに長いスパンになると思うんよな。親子関係って。横のつながりって割と淘汰されて流動的にパーって揃うていくところがあると思うんやけど、親子の関係って、その一点しかないけん、そこが変わっていくって、すごく長いスパンで見ないとしんどくなって、諦めて、もうあかんわとかなりかねんのやけどと思いました。